

国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム



令和3年6月

内閣府 沖縄総合事務局
国営沖縄記念公園事務所

はじめに

国営沖縄記念公園は、沖縄の本土復帰を記念する事業の一環として、昭和 50 年度に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の跡地に設置した「海洋博覧会地区」（以下「海洋博公園」という。）と、昭和 61 年度より首里城の復元を進めてきた「首里城地区」（以下「首里城公園」という。）があります。

また、平成 31 年 2 月より海洋博覧会地区の水族館及び海獣施設等と首里城地区の正殿等の有料区域については、管理許可を与えられた沖縄県が管理運営を行っております。

令和元年度の公園入園者数は、海洋博公園が約 456 万人、首里城公園が約 206 万人となっており、外国人及び沖縄県外からの入園者の占める割合は、海洋博公園が約 79%、首里城公園が約 90%となっています。

このように国営沖縄記念公園は沖縄観光振興の中核施設、我が国を代表する歴史的遺産の継承という重要な役割を担っており、今後も安全で快適な、そして魅力あふれる満足度の高い公園整備と管理運営を行うとともに、沖縄県と連携しつつ管理運営を行っていきます。

なお、令和元年 10 月 31 日の首里城正殿等の火災により正殿等 9 施設が焼失したことを受けて首里城公園の復元整備は、前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、防火対策の強化及び材料調達の状況の変化等の反映の観点を踏まえ復元整備を進めていきます。

本プログラムは、国営沖縄記念公園（海洋博公園、首里城公園）の整備・管理運営の基本的な方向性を定めた「海洋博公園基本計画」及び「首里城地区整備計画」等の進捗状況を踏まえ、令和 3 年度～令和 7 年度の 5 ヶ年間の公園整備及び管理運営の方針を示したものです。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。

目 次

I. 全体計画及び開園状況等

1.全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.供用の経緯	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 主な供用施設	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4.入園者数の推移・・・・・・・・・・・・/・・・・	11
5.公園のストック効果	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	12
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	15

II. 令和7年までの整備及び管理運営の方針等

1.令和7年度までの整備・管理運営の重点項目	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	17
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	18
2.整備・管理運営方針	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	19
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	24
3.事業効果	
(1) 海洋博公園・・・・・・・・・・・・・・・・	28
(2) 首里城公園・・・・・・・・・・・・・・・・	29

I 全体計画及び開園状況等

1. 全体計画

海洋博公園（77.2ha）は、昭和50年度（1975年）に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念して、昭和51年8月に博覧会跡地に設置され、沖縄振興、本島北部地域振興の中核的な機能を担う国営公園として40年以上にわたり運営整備を進めてきました。さらに、これまでの海洋博公園の整備・運営により蓄積された実績を基に、海洋生物、熱帯亜熱帯植物の繁殖・栽培技術の普及啓発にとどまらず沖縄観光のPR、誘客活動に取り組むなど、沖縄振興における海洋博公園が果たす役割は極めて重要なものとなります。そのため、沖縄に立地する国営公園としての役割を高度に発揮して、計画整備と管理運営を進化させ、より安全で快適で魅力ある満足度の高い公園づくりを行うとともに、これまで育み醸成してきた公園文化を持続的に発展させる整備・管理運営に取り組んでいます。

首里城公園（4.7ha）は昭和61年度より首里城の復元を進め、平成4年度に第1期が開園された国営公園です。貴重な国民の文化遺産を回復する目的で復元された首里城においては、新たな県民文化の創出と伝統技術の継承・発展を図り、歴史的風土探訪の場として整備を行ってきました。首里城の歴史的風致に配慮しつつ、歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備と文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実化に向けて管理運営に努めてきました。



10 海洋博公園

- ◆ 位 置 : 沖縄県国頭郡本部町
- ◆ 都市計画決定面積 : 77.2ha
- ◆ 開園面積 : 71.8ha
- ◆ 整備着手年度 : 昭和 50 年度
- ◆ 供用開始年度 : 昭和 51 年度
- ◆ 公園の基本テーマ : 「太陽と花と海」

◆基本方針

- ① 沖縄にふさわしい公園とするとともに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とする。
- ② 沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とする。
- ③ 日本人だけでなく外国の人々にも利用される公園とする。
- ④ 海との調和を十分考慮する。
- ⑤ 亜熱帯気候を十分考慮し、四季を通じて利用できるものとする。
- ⑥ 歴史的・文化的資源を生かした公園とする。

海洋博公園現況図



② 首里城公園

- ◆ 位置 : 沖縄県那覇市
- ◆ 都市計画決定面積 : 4.7ha
- ◆ 開園面積 : 4.7ha
- ◆ 整備着手年度 : 昭和 61 年度
- ◆ 供用開始年度 : 平成 4 年度

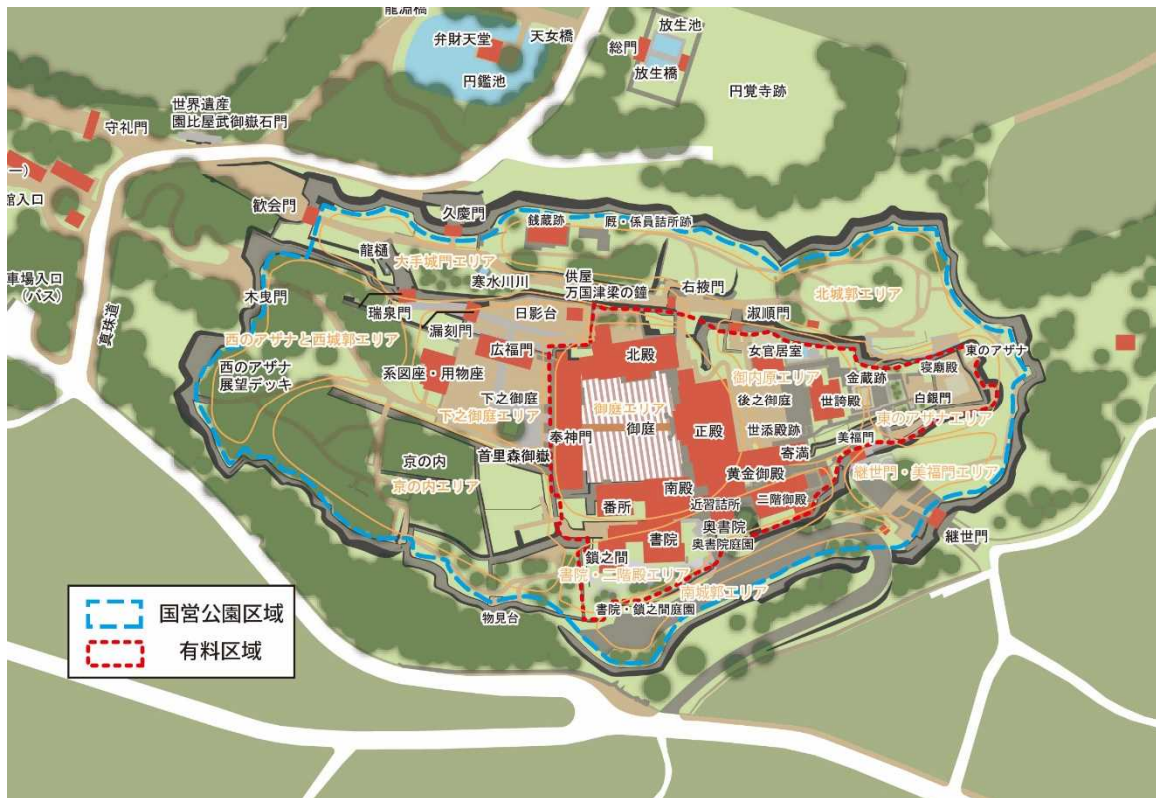
◆基本方針

- ① ^{すいむい} 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。
- ② 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。
- ③ 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。
- ④ 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。

◆復元整備の意義

- ① 貴重な国民文化遺産の回復
- ② 新たな県民文化の創出
- ③ 伝統技術の継承と発展
- ④ 歴史的風土探訪の場の形成

首里城公園現況図



2.供用の経緯

(1) 海洋博公園

海洋博公園は、沖縄の未来の振興を象徴する博覧会として開催された沖縄国際海洋博覧会の跡地利用計画によって、国が設置する国営公園として閣議決定され、昭和51年に都市計画決定（77ha）を行い一部供用が開始されました。その後様々な公園施設の整備を進めながら北部振興の拠点として多くの人々に利用されており、平成14年には沖縄美ら海水族館が開館し、沖縄観光に極めて大きい貢献を果たしてきました。令和元年度末現在では、供用面積71.8ha（計画面積の93%）が開園しています。

年度	事項	供用面積
昭和50年度	沖縄国際海洋博覧会跡地の公園設置を閣議決定 海洋博公園（77ha）を都市計画決定 S51.3.22	
昭和51年度	国営沖縄海洋博覧会記念公園開園	36.0ha
昭和54年度	ちびっことりで、中央ゲート駐車場供用開始	43.0ha
昭和55年度	おきなわ郷土村、おもろ植物園、東駐車場供用開始	48.0ha
昭和60年度	熱帯ドリームセンター供用開始	60.0ha
平成2年度	熱帯・亜熱帯都市緑化植物園供用開始	69.0ha
平成6年度	マナティー館、ウミガメ館供用開始	69.0ha
平成11年度	南地区エントランスゾーン供用開始	70.7ha
平成14年度	新水族館（沖縄美ら海水族館）供用開始	70.7ha
平成15年度	総合案内所（ハイサイプラザ）供用開始	71.6ha
平成22年度	オキちゃん劇場リニューアルオープン供用開始	71.6ha
平成24年度	夕陽の広場展望レストハウス・エメラルドゲート・駐車場供用開始	71.8ha
平成25年度	海洋文化館展示ホールリニューアルオープン供用開始	71.8ha
	供用面積 計	71.8ha

(2) 首里城公園

首里城公園は、昭和 32 年より戦災文化財の復元事業が始まり、守礼門や観会門などの復元が沖縄県によって進められました。昭和 61 年には首里城公園計画区域約 18ha のうち、城郭内約 4ha を沖縄復帰を記念する国の都市公園整備事業（国営沖縄記念公園首里城地区）で復元整備することが閣議決定され、併せて城郭外側の区域約 14ha を県営の都市公園事業として整備することになりました。平成 4 年に正殿等を含む主要建物等を一部開園し、平成 31 年 2 月に全ての国営公園区域が開園しました。

しかし、令和元年 10 月 31 日の火災により首里城正殿等 9 施設が焼失しました。

年代	事項	供用面積
昭和 59 年度	沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定	
昭和 61 年度	首里城跡地の区域を「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備を閣議決定、首里城公園（17.8ha）を都市計画決定	
平成元年度	首里城正殿建築工事に事業着手	
平成 4 年度	首里城地区一部供用開始	1.7ha
平成 9 年度	歓会門、久慶門内側周辺供用開始	1.8ha
平成 12 年度	首里城跡の世界遺産登録	
平成 15 年度	京の内供用開始	2.5ha
平成 18 年度	書院・鎖之間供用開始	2.6ha
平成 20 年度	書院・鎖之間庭園供用開始	2.7ha
平成 22 年度	淑順門供用開始	2.8ha
平成 25 年度	黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院供用開始	2.8ha
平成 26 年度	奥書院庭園供用	2.9ha
平成 27 年度	銭蔵跡等供用開始	3.2ha
平成 28 年度	北城郭園路広場供用開始	3.6ha
平成 30 年度	首里城地区全エリア供用開始(東のアザナ、白銀門、二階御殿、世誇殿、女官居室、後之御庭、美福門)	4.7ha
令和元年度	10/31 の火災により首里城正殿等の主要施設が焼失	
	供用面積 計	4.7ha

3.主な供用施設

(1) 海洋博公園



A オーシャンックゾーン

「海」をテーマとしたゾーンで、沖縄美ら海水族館をメインに、イルカショーを楽しむオキちゃん劇場、沖縄の海を体感できるエメラルドビーチなどがあります。

施設名	写真	施設概要
沖縄美ら海水族館		巨大なジンベエザメやマンタが観察できる大水槽「黒潮の海」、沖縄の深海を再現した「深層の海」、太陽の光が降りそそぐ「サンゴの海」など、神秘に満ちた沖縄の生き物たちの世界を体感できます。
オキちゃん劇場		海を背景にイルカなどのダイナミックなハイジャンプ、ダンスやコーラスなどを楽しめる「ショープール」は雨よけと日よけの屋根が設置され、快適にショーを楽しむことができます。
エメラルドビーチ		エメラルドビーチは沖縄でもめずらしい礁湖（ラグーン）内にあるビーチで、「遊びの浜」「憩いの浜」「眺めの浜」の3区に分かれた美しいコーラルサンドを形成しています。

B 沖縄文化・センターゾーン

沖縄の海と島を眺望できる公園の顔となる中心ゾーンで、環太平洋、沖縄文化をテーマにした海洋文化館、昔の村落を再現したおきなわ郷土村、総合案内所などがあります。

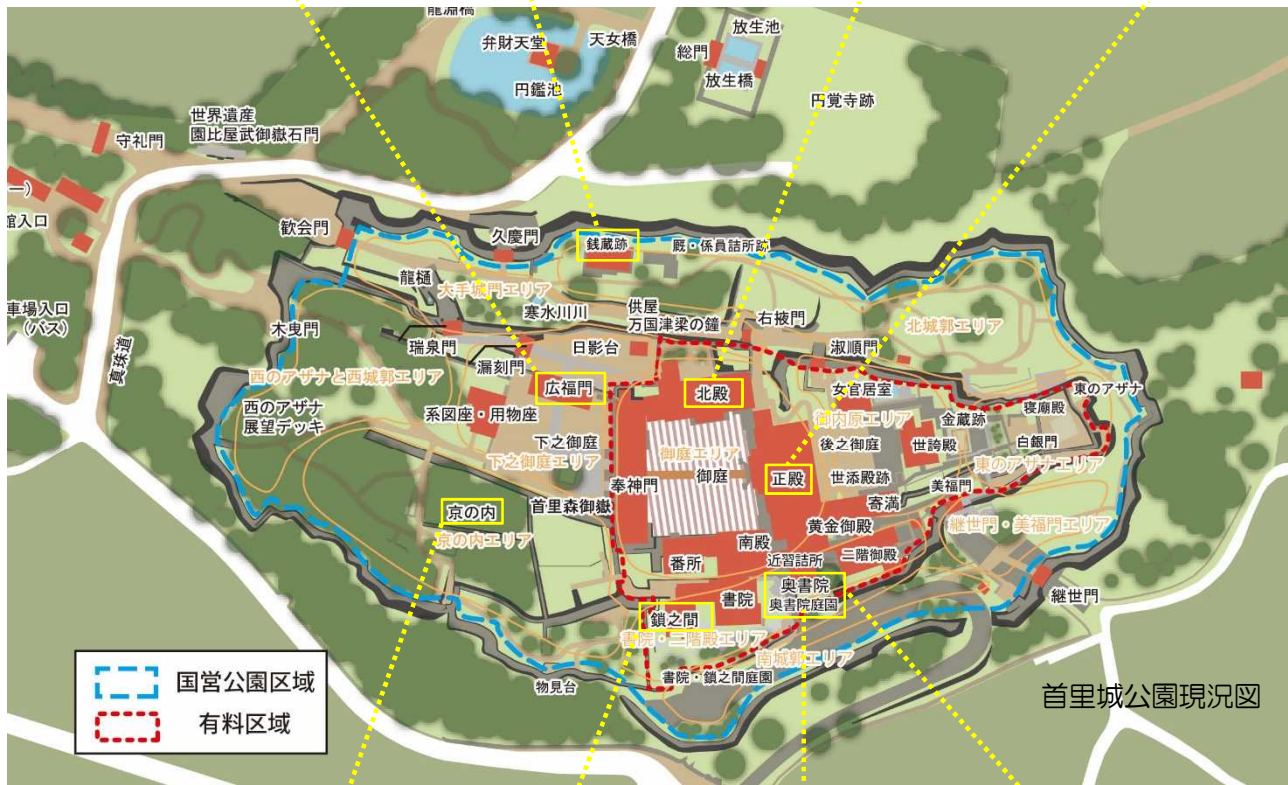
施設名	写真	施設概要
海洋文化館		アジア・南太平洋地域の人間と海とのかかわりを示すさまざまな漁具、船、生活用具などを南太平洋のメラネシア、ポリネシア、ミクロネシア、更に東南アジア、日本などから集めて展示し、太平洋地域の海洋文化を興味深く紹介する施設です。
おきなわ郷土村		沖縄の昔の村落の成り立ちを基本にして、琉球王国時代から明治 22 年頃までの村落の様子を再現したものです。沖縄本島北部に現存するものをモデルにした「沖縄の高倉」など、再現した家屋がフクギ並木の中に立ち並んでいます。
ちびっことりで		ちびっことりでは、日本最大級のネット遊具でさざなみゾーン、大海原ゾーン、深海ゾーンの4つのゾーンから構成されています。

C 熱帯亜熱帯環境ゾーン

色鮮やかな花や緑に囲まれ、沖縄の自然を満喫できるゾーンとして、多くのランを展示する熱帯ドリームセンター、植物見本区、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園などがあります。

施設名	写真	施設概要
熱帯ドリームセンター		公園のテーマである「太陽と花と海」の「花」を象徴するランや熱帯花木が咲き乱れる東南アジア、中南米、南アフリカなどの地域のイメージを非日常的な空間として再現し、レンガ張りの建築物群により独特な景観を形成しています。
夕陽の広場		東シナ海に面した広場は、晴れた日には美しい夕陽が望めます。中央には花階段があり、家族連れでも楽しめる開放的な憩いの空間が広がっています。子供たちが楽しく遊べるアイテムが盛りだくさんの遊具施設もあります。
熱帯・亜熱帯都市緑化植物園		花と緑に囲まれた「熱帯・亜熱帯都市緑化植物園」は身近に植物を感じて学びながら遊べるエリアです。400 種を超える植物を集めた植物見本区や、無料でグラウンド・ゴルフができるエリアがあります。


(2) 首里城公園



首里城公園現況図



A 有料区域

正殿 (せいでん)	北殿 (ほくてん)	南殿・番所 (なんでん・ばんどころ)	書院・鎖之間 (しょいん・さすのま)
 <p>首里城の中心的な建物として、一階は主に国王自ら政治や儀式を、二階は国王と親族、女官らが儀式を行う場でした。</p>	 <p>王府の中央行政庁として、日常は大勢の官人が出入りし、首里城の中で最も活気のある館でした。</p>	 <p>「番所」は正殿を訪れる人々の受付等、「南殿」は主に儀式や薩摩藩の接待所として使用された建物でした。</p>	 <p>国王が執務の合間に休息した建物であり、建物の南側には庭園があります。</p>

世誇殿 (よほこりでん)	女官居室 (によかんきょしつ)	東のアザナ (あがりのあざな)	奉神門 (ほうしんもん)
			
平常は王女の居室として使われ、また、新しい国王の即位の儀式を行う特別な建物でした。	女官居室は、御内原で奉公する女官達の日常生活の場であったと考えられています。	城郭の東側に築かれた物見台で、城内で最も高く、往時は城下に時を知らせる役割もありました。	奉神門は「神をうやまう門」という意味で、首里城正殿のある「御庭」へ入る最後の門です。

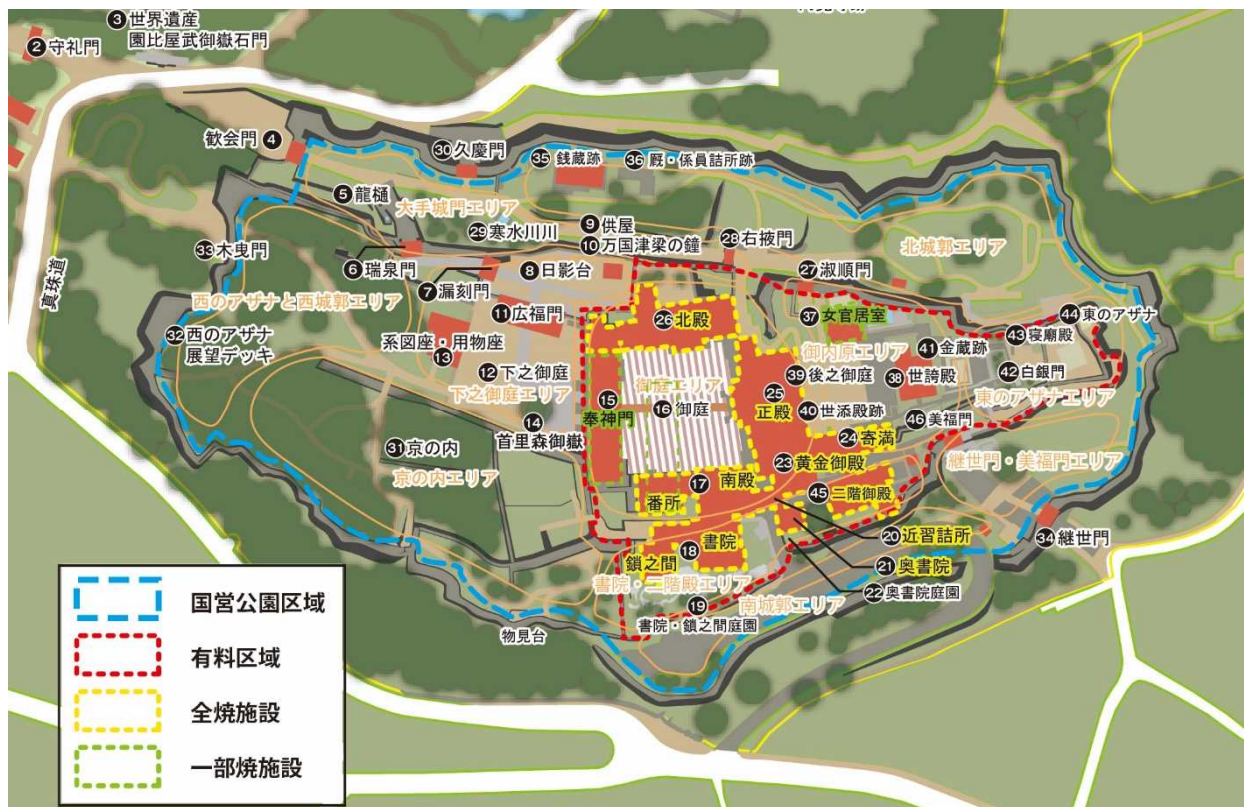
※焼失した施設は、「C 首里城正殿等の焼失」を参照

B 無料区域

広福門 (こうふくもん)	下之御庭 (しちやぬうな)	系図座・用物座 (けいずざ・ようもつざ)	京の内 (きょうのうち)
			
王朝時代、この建物には神社仏閣を管理する「寺社座」と士族の財産の争いを調停する役所が置かれていました。	正殿前で行われる様々な儀式の控え場であり、現在は城内でのイベント等に利用しています。	「系図座」は士族の家系図を管理し、「用物座」は城内で使用する物品、資材等の管理を行っていた場所でした。	首里城発祥の地ともいわれる聖域で、神女たちによって王家繁栄、航海安全、五穀豊穰などが祈られました。
美福門 (びふくもん)	継世門 (けいせいもん)	右掖門 (うえきもん)	久慶門 (きゅうけいもん)
			
継世門(けいせいもん)が建てられる前までは、美福門が首里城の正門であったとする説もあります。	東側にある通用門で、国王が亡くなると王子がこの門を通して王位継承した事からこの名前が付けられました。	歓会門、久慶門、淑順門へと通じる門で、御内原への通用門として使用していました。	ここは通用門で主に女性が利用していたといわれています。また、国王が行幸する時にこの門を使用しました。

C 首里城正殿等の焼失

令和元年 10 月 31 日未明に発生した火災により、下図の正殿等 9 つの施設が焼失しました。

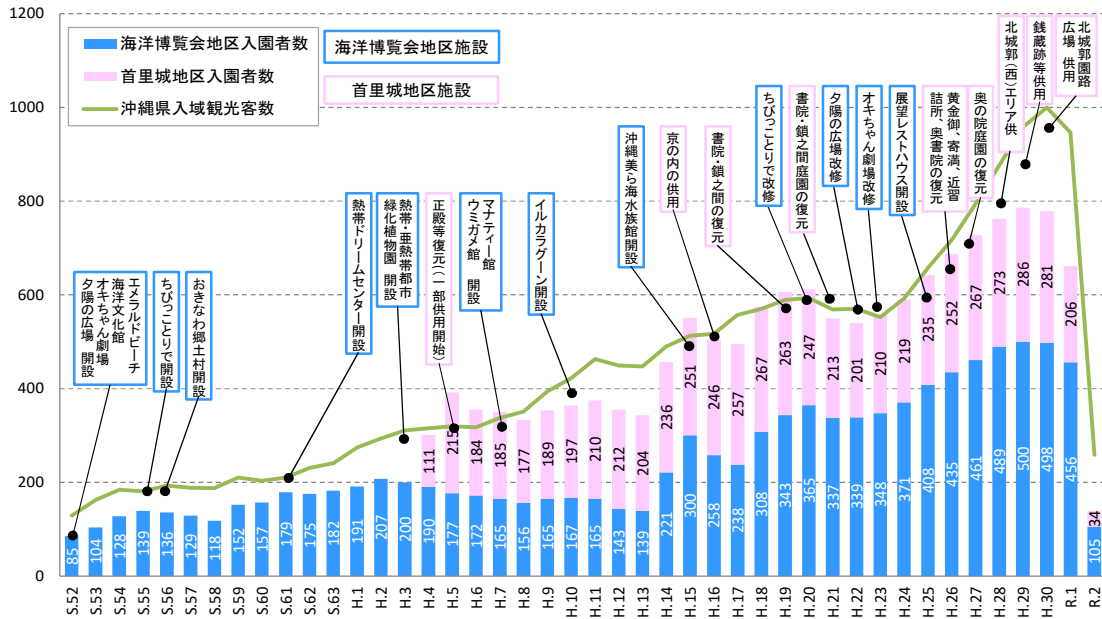


全焼施設：正殿、北殿、南殿・番所、書院・鎖之間、奥書院、黄金御殿・寄満・近習詰所、二階御殿 の 7 施設
一部焼失施設：奉神門、女官居室の 2 施設

4.入園者数の推移

国営沖縄記念公園は施設整備に伴い入園者数が年々増加していましたが、令和元年度後半は新型コロナウイルス感染症の影響により入園者数は減少し、令和2年度年間入園者数は、海洋博公園で約105万人、首里城公園で約34万人となっています。

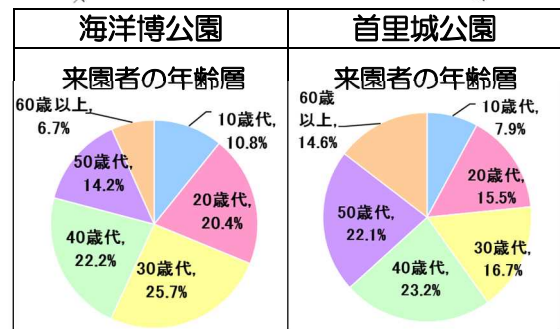
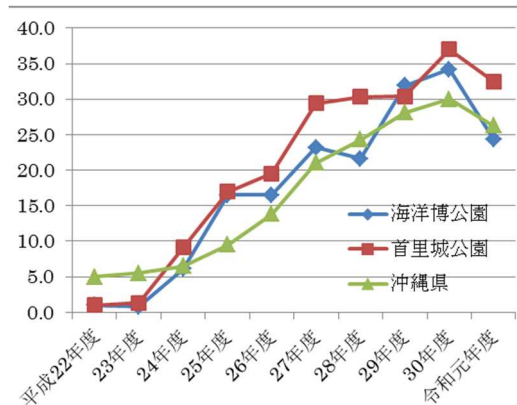
入園者数総数は、海洋博公園が45年間の累計では107,986千人、首里城公園が29年間で63,274千人が訪れています。



沖縄県の入域観光客に占める外国人観光客の割合の顕著な増加傾向に伴い、海洋博公園と首里城公園にも外国人利用者が数多く訪れており、過去10年間で外国人の占める割合が大幅に増加し、沖縄の持続的な観光振興に大きく寄与している状況が見られます。

また、来園者の年齢層では10歳代から60歳代以上までの幅広い年齢層が利用している状況にあります。

外国人利用者数の割合(%)推移



令和2年度アンケート調査利用

5.公園のストック効果

(1) 海洋博公園

① 観光振興効果

- ・沖縄県における外国人観光客の訪問先の上位となっており、沖縄県の観光拠点として、観光産業の牽引に寄与しています。(首里城公園共通)

令和元年度：

沖縄県入域観光客 1016 万人 (723 万人/293 万人)

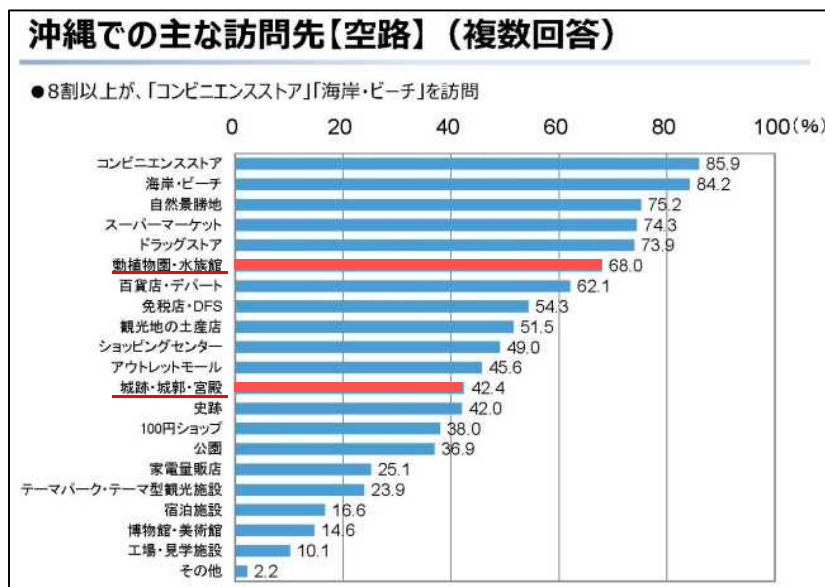
(カッコ内は日本人観光客数/外国人観光客数：令和元年沖縄県入域観光客数統計)

国営沖縄記念公園入園者数 662 万人(371 万人/178 万人)

海洋博覧会地区 456 万人 (251 万人/111 万人)

首里城公園地区 206 万人 (120 万人/67 万人)

(カッコ内は園内の日本人観光客数/園内の外国人観光客数 (推計))



出典) 平成30年度外国人観光客実態調査報告書・沖縄県(沖縄での外国人観光客訪問先・空路調査)

- ・海洋博公園開園以来、周辺にホテル等の観光関連施設が立地し、近年の来園者の増加に伴い、さらに新規宿泊施設、物販・飲食施設等の新規営業開始が続いており、物販・飲食・宿泊等観光消費の拡大による地域の観光振興に寄与しています。



② 健康・レクリエーション空間提供効果

- ・「ちびっことりで」における、沖縄の海をテーマにしたネット遊具を中心とした遊び場や、滑り台などを備えた3階建ての大型複合遊具「アクアタウン」等において、屋外で身体を動かす遊びを通し、子どもの健全な発育に不可欠な効果に寄与しています。



ちびっことりで

- ・沖縄郷土村では、「昔のおきなわ生活体験」や「ヤギふれあい体験」、「ガイドツアー」等を通し、沖縄の伝統文化や村落の成り立ちについて、誰もが楽しく学べる場を提供しています。



三線体験



昔のおきなわ生活体験

③ 環境維持・改善効果

- ・園内の自然豊かなフィールドを活用した動植物の観察会や環境学習などの多様な体験型プログラムを実施し、地域固有の動植物種や生態系の保全・再生などにより、都市の生物多様性向上に寄与しています。



ウミガメ飼育体験



イノの自然観察会



海洋博公園ナイトツアー

④ 歴史文化の継承・展開

- おきなわ郷土村に再現された茅葺民家の屋根を協働参加型で修繕を実施し、葺替イベントを通じた地域、園内の文化的資源及び伝統技術の保存・継承に寄与しています。



おきなわ郷土村 茅葺きイベント

⑤ コミュニティ形成効果

- 沖縄県、特に海洋博公園の位置する北部地域(やんばる)の物産の紹介及び販売や地元店舗の出店等のイベント開催により、多様な主体による交流・連携の機会を提供し、コミュニティの活性化に寄与しています。



物産販売イベント

⑥ 地域経済活性化効果

- 海洋博公園で最も入園者数が多いイベントである「海洋博公園 花火大会」によって、地域の宿泊施設、飲食物販施設、ツアーを実施するバス・旅行会社等、地域企業等の地域経済の活性化に寄与しています。また、「夕陽鑑賞会 サンセットライブ」では、県内で活躍するミュージシャン、学生などによるライブの他、地域の食堂、カフェによる「おいしいもの広場」の実施により、地域経済の活性化に寄与しています。
- 宿泊施設、物販・飲食施設の新規の営業開始によって雇用の創出及び地域経済の活性化に寄与しています。



花火大会

(2) 首里城公園

① 観光振興効果

- ・LCC 航空路線の新規就航、既存路線の増便や、大型クルーズ船就航によるインバウンド増に対し、観光資源として多数の観光客を誘引し、地域の観光振興に寄与しています。

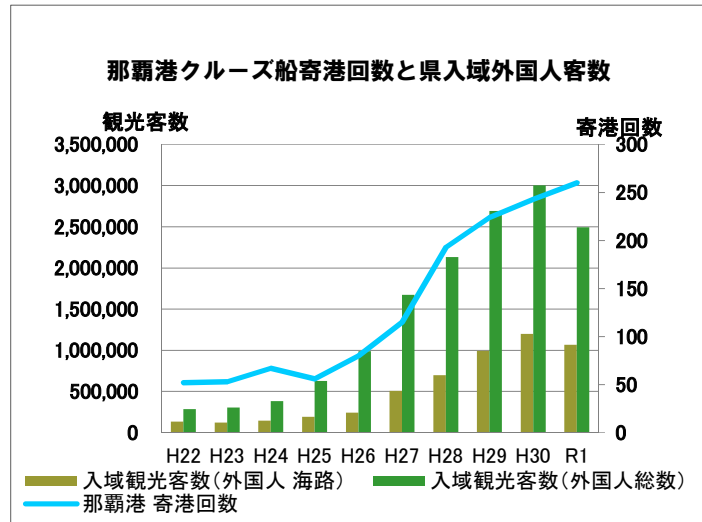


那覇クルーズターミナル
平成26年4月供用開始

出典)

写真：沖縄総合事務局HP

図：クルーズ船寄港回数は沖縄総合事務局2019実績（速報値）、入域観光客数は沖縄県外国人観光客実態調査を元に作成



② 文化伝承効果

- ・通年イベントとして、御開門式、首里城ライトアップ、舞への誘い、三線体験会を行い、歴史イベントとして、百人御物参、新春の宴、琉球王朝絵巻行列（国際通り）などの実施を通じて地域、園内の文化的資源及び伝統芸能等の保存・継承に寄与しています。



- ・古絵図、古写真、遺構等の情報に基づいた首里城建造物等の復元整備、建物の漆塗裝修復等により、園内の文化的資源及び伝統技術の保存・継承に寄与しています。



漆塗裝修復

③ 景観形成効果

- 歴史的な復元建物を整備することで、都市を代表するシンボル景観を形成しています。
- 那覇市景観計画において首里城周辺は「首里歴史エリア」に位置づけられています。特に首里金城地区、龍潭通り沿線地区は都市景観形成における重点地区に指定され、建築物の壁面の位置や高さの制限、赤瓦屋根や緑化の推進、景観木保全や電線の地中化等による景観形成に取り組むなど、地域の特徴ある景観の保全と創出を牽引しています。



2007年頃



2020年11月

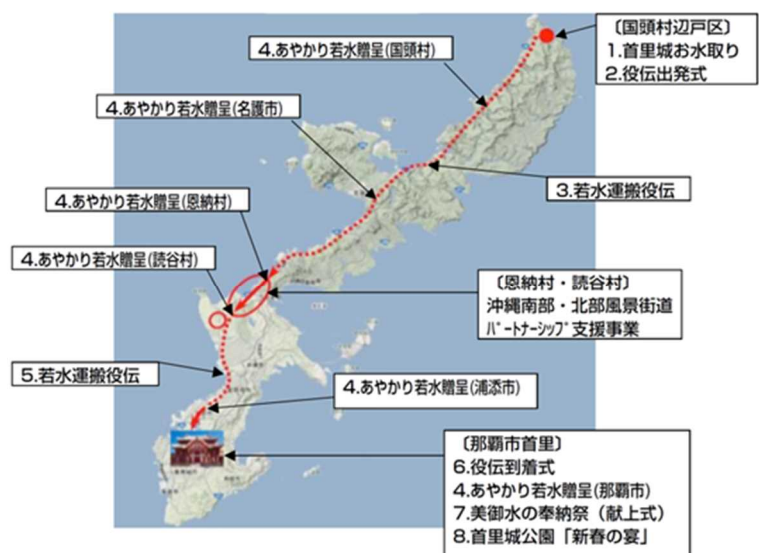
龍潭通りの景観変遷

④ コミュニティ形成効果

- 多様な行催事の実施等により、高齢世代と子育て世代、古くからの住民と新たに転入してきた住民等、多様な主体の交流・連携の機会を提供し、コミュニティの活性化に寄与しています。



首里城祭



北部(国頭村)から若水献上役伝、美御水の奉納

Ⅱ

令和 7 年度までの整備及び管理運営の方針等

1. 令和7年度までの整備・管理運営の重点項目

(1) 海洋博公園

海洋博公園は「太陽・海・花」をテーマに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園として、海との調和、歴史的・文化的資源の活用、亜熱帯気候を考慮した利用促進等により、国内外から数多くの利用者が訪れる公園となっており、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者の回復に向け、引き続き国営公園として波及効果を継承するとともに、沖縄観光の魅力をより高める体験プログラム等を提供し、沖縄らしさの発信や地域観光への誘導等による地域振興・地域連携、公園が有する自然資源の有効活用や公園景観の再構築等により、公園利用の魅力度の更なる向上を図ります。

また、開園から 40 年以上が経過し、老朽化が進んでいる施設や関連設備等もあることや、国内外からの利用者の増加、大規模自然災害等に対する備え等に留意し、公園利用者への安全・安心、快適に楽しめる公園を目指していきます。

このため、以下の事項を中心に計画的な整備・運営管理を進めてまいります。

① 沖縄の持続的な観光振興、経済活性化効果の継承と向上

本公園の基本テーマである、「太陽・海・花」を体験し、快適に過ごすことができる利用者満足度の高い公園を目指すとともに、沖縄の持続的な観光振興や経済活性化の効果をより発揮すべく沖縄県や地域との連携を強化させ、公園全体の魅力をより高めることで、持続的な利用促進を実現する公園づくりを継続的に取り組みます。

② 安全・安心な利用空間の提供と環境保全・活用による環境形成効果の向上

開園から 40 年以上が経過し、施設やインフラの老朽化への対応を行うとともに、国内外から多くの利用者を受け入れる公園として、大規模災害時における防災機能の強化に努め、安全・安心かつ快適に過ごせる園内環境の向上に取り組みます。

また、沖縄の貴重な自然環境の保全・活用を推進するために、これまでの動植物の調査研究成果を踏まえ、計画的なエコアップの取り組みや自然への理解を促す体験型プログラムや企画展示会等の取り組みを強化します。

③ 地域の歴史的・文化的資源を生かした文化伝承効果の向上

沖縄文化・センターゾーンは、令和4年度までにおきなわ郷土村等の再整備を完了させ、沖縄の歴史文化、生活文化、海洋文化等を楽しく学び・体感できる活動機能を向上させます。

(2) 首里城公園

首里城公園は、令和元年10月31日の首里城の火災により正殿等の施設が焼失したことを受けて、首里城の一日も早い復元に向けて正殿等の復元整備に努めます。

復元整備においては、首里城復元のための関係閣僚会議で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、首里城正殿について、令和4年の本体工事着手、令和8年の復元に向けた取組を進めます。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進します。

このため、以下の事項を中心に計画的な整備・管理運営を進めてまいります。

① 首里城正殿等の復元・復興

首里城正殿の本体工事の着工に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を行い、首里城正殿の本体工事の着工に向けて、令和3年度に実施設計、木材調達・乾燥、木材倉庫の整備を進め、首里城正殿は令和4年に本体工事を着工し、令和8年までに復元することを目指します。

② 首里城復元の段階的な公開

首里城正殿等の復元の過程について、管理を担う沖縄県と連携し、地元の方や観光で来県する方に見せていく「見せる復興」を通じて、琉球の歴史・文化に触れあえる首里城としての魅力を高め、より深みのある首里城の歴史・文化を演出し、利用促進を図っていきます。

③ 地域振興・観光振興への貢献

首里城復元の段階的な公開、ボランティア活動や公園イベントの開催を通して、沖縄の持続的な観光振興や経済活性化の効果をより発揮すべく沖縄県や地域との連携を強化させていきます。

さらに、琉球王朝時代の行催事の再現と沖縄の伝統芸能等の興味深いイベントを行いつつ、収集・復元した美術工芸品の企画展示等の実施、火災により影響を受けた龍柱や遺構等の公開により、首里城の歴史的・文化的価値の認識を高め、地域振興・観光振興への貢献に取り組んでいきます。

④ 安全・安心な利用空間の提供効果の向上

国内外から多くの利用者を受け入れる公園として、大規模災害時における防災機能の強化に努め、安全・安心かつ快適に過ごせる園内環境の向上に取り組むとともに、既存施設においても計画的に予防保全を行い、既存施設の価値を高め、復元整備と一体となって、琉球の歴史・文化にふれあえる新たな首里城としての魅力を高めます。

首里城正殿等の復元に向けた工程表（令和2年3月）首里城復元のための関係閣僚会議決定）抜粋

首里城正殿について、令和2年度（2020年度）早期に設計に入り、令和4年（2022年）中には本体工事に着工し、令和8年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め別添のとおり復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

2. 整備・管理運営方針

(1) 海洋博公園

① 沖縄の持続的な観光振興、経済活性化効果の継承と向上

◆公園全体の魅力向上

- ・優れた自然景観や庭園の手法を活かし、公園の魅力を高める景観形成を図ります。
- ・沖縄の亜熱帯気候を活かした四季折々の魅力を感じさせる草花展示、沖縄の自然や歴史・文化を体感できる機会の充実などとともに、利用者サービスの向上に努め、継続的に公園全体の魅力を向上させます。
- ・遊覧車の車両の見直し（大型化、車両デザインの工夫等）や運行方法の見直し（運行ルート、乗降ポイント、運行情報の提供方法等）を行うとともに、沿道景観の整備や車内でのサービス向上を強化します。
- ・植栽の整序も行いつつ、海と島を望む視点場を整備し、眺望の魅力向上に引き続き取り組みます。
- ・来園者のライフスタイルをより豊かに変化させるために、IT技術の進化に伴うDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入を視野に入れた管理運営を新たに進めます。



美ら海花まつり



眺望を楽しむ為の植栽整序

◆熱帯亜熱帯環境ゾーンの取り組み

熱帯亜熱帯環境ゾーンは、熱帯亜熱帯植物を多数展示し、色鮮やかな花や緑に囲まれた自然を満喫できるゾーンです。

熱帯亜熱帯環境ゾーンでは、「沖縄の自然、熱帯・亜熱帯の魅力と不思議」、「海を越え世界とつながってきた沖縄の人々が持ち帰った万国津梁の花」、「豊かな自然とともに育まれてきた沖縄独自のみどりの文化」を共通のテーマに、利用促進を図るために主な施設等の魅力と満足度をより高められるよう再整備の検討を進めます。

・熱帯ドリームセンター

施設の老朽化対策に併せて、来園者に「驚きと感動」及び「気づきと学び」を与えるための展示手法等の見直しを行い、施設としての魅力向上の取り組みを図ります。

・熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

県道からの視認性向上のため、視界を遮る壁を除去する等、南ゲートの改良の検討を行います。

子ども連れファミリー層の利用を中心にすべての世代が、自然や緑とのつきあい方を五感を通じて学び、



熱帯ドリームセンター



都市緑化植物園

沖縄の花や緑、自然の恵みへの関心を高め、沖縄の自然に根ざした健康的な暮らしや生活文化を体感できる場と体験プログラム等の提供を検討します。

- 自然資源を活用した遊びや、生物多様性等に配慮した体験学習の導入に向けて、貴重な自然を体験できるフィールドの確保に取り組みます。
- 公園南側エリアの交通利便性の向上を図るため、新たな園内交通手段についても、社会実験としての試行的な導入を検討します。

◆地域との連携強化

- 北部地域の観光振興の牽引、アジア・太平洋地域のリーディングパークの構築、新たな国営公園の姿の実現に向けて地域連携、国際連携・国際交流、調査研究・技術開発、普及啓発を引き続き展開します。
- 沖縄県が実施する誘客事業と連動した国内外の誘客推進事業、地域と連携した情報発信や連携事業を推進し、さらなる誘客向上に努めます。
- 学校、地域の団体やNPOなどと連携し、公園から地域へ、利用者が地域の交流・環境保全活動へ参加できる仕組みをつくります。
- 海洋博公園を楽しみ、併せて北部地域を楽しめる仕組みづくりを強化します。



本部町と共催の開催事例

◆国際交流の推進

- 新型コロナウイルス感染症の影響により減少したインバウンドの回復に向け、公園利用の利便性を高めるために、ICTを活用しつつ、興味を引く解説等の充実化に向けて継続的に取り組みます。
- 海洋生物（沖縄美ら海水族館等）、海洋文化（海洋文化館等）、熱帯亜熱帯植物（熱帯ドリームセンター等）を活用し、アジア・太平洋地域との国際交流を推進します。
- 国内外の大学、博物館、水族館等と国際的な学術ネットワークを強化し、イベント、情報発信、交流事業を推進します。

◆駐車場の混雑緩和

- 駐車場の混雑情報をカーナビや公園のホームページ等を通じて提供するとともに、地元自治体や周辺事業者等との連携により公園内外の駐車場確保に関する検討を進め、混雑緩和や利便性向上を継続していきます。
- 交通事業者との連携も強化し、公共交通によるアクセスの向上を図り、駐車場需要を抑制します。

◆管理運営執行体制

- 沖縄美ら海水族館及び海獣施設等の管理を担っている沖縄県と連携を強化することにより、沖縄観光や地域経済の振興への効果をより発揮できる管理運営体制の構築を図っていきます。

② 安全・安心な利用空間提供と環境保全・活用による環境形成効果の向上

◆防災機能の充実

- ・大規模災害等発生時に、災害時要援護者等を含む全ての来園者を安全かつ円滑に誘導できるよう、避難誘導體制の充実や避難場所・避難ルート（公園外の周辺施設への避難ルートを含む）の確保を図るとともに、避難誘導標識・海拔表示板・防災マップ等を新たに整備します。
- ・大規模災害等発生時において帰宅困難者対応として、非常用発電設備の増強や使用可能な災害用トイレを新たに整備します。
- ・新型コロナウイルスへの感染拡大の予防等の新しい生活様式の状況や社会経済の変化等に対応した新たな管理運営形態を適切に実施していきます。



海拔表示例

◆ユニバーサルデザインの推進

- ・高齢者、障害者、乳幼児連れ、児童、外国人等来園する全ての人の利用に配慮して施設のデザインを行い、最新のICTの積極的な活用などにより、わかりやすい公園案内やヒューマンサポートを継続的にを行います。



五言語を使った案内サイン

◆老朽化施設の更新

- ・園内には、多数の施設が設置されていますが、その多くは海洋博覧会当時に整備され、耐用年数が過ぎた施設も多く、老朽化が進んでいます。
- ・老朽化施設については、劣化調査、老朽施設の建替え、ユニバーサルデザインの導入を引き続き計画的に推進します。
- ・公園施設長寿命化計画に基づく適正な維持管理を行うことにより、ライフサイクルコストの縮減を継続的に取り組みます。



海洋文化館のコンクリート部の劣化

◆省エネルギー、自然エネルギーの活用

- ・地球温暖化防止対策として、省エネルギー機器等の活用により公園内で消費する来園者一人当たりのエネルギー消費量を低減化に取り組みます。
- ・太陽光発電など再生可能・未利用エネルギーを活用します。
- ・屋上、壁面緑化により施設内部の温度上昇を緩和するとともに、雨水の活用を進めます。



太陽光発電システム表示パネル

◆環境の保全・活用の向上

- 本公園が立地する自然環境の保全・再生を進めるとともに、本部半島の自然環境や自然に根ざした沖縄の生活文化に身近にふれることができる、ニューツーリズムに対応したモデル公園として、新たな体験型観光のプログラムを展開します。
- 美ら海プラザ、熱帯ドリームセンター、夕陽の広場レストハウス及び熱帯・亜熱帯都市緑化植物園等で、沖縄の海の自然環境や亜熱帯動植物に関する講習会や企画展を継続的に開催します。
- 耐潮性植栽の導入や海崖の自然植生の保全・管理等により、海岸部に立地する公園にふさわしい植栽の演出等を強化します。
- 目前に広がる礁池、砂浜、海岸岩礁、隆起サンゴ礁などを引き続き環境教育の場として活用します。
- 海洋生物や希少植物の保護・育成の研究成果を継続的に反映し、環境教育や環境保全に活用します。
- 動植物調査に基づく計画的なエコアップ（生物の生息・生育環境の回復）を取り組むことで、本部半島のモデル地域とします。
- 公園に生息する多様な動植物に関する情報を公園利用者に積極的に提供し、公園資源の「見える化」を引き続き図ります。



ウミガメ体験学習



ウミガメ放流

環境プログラムの実施例

③ 地域の歴史的・文化資源を生かした文化伝承効果の向上

◆おきなわ郷土村のリニューアル

沖縄文化・センターゾーンは、沖縄の海と島（伊江島）を眺望し、花や水を楽しむ空間において賑わいとくつろぎを感じることができることや、沖縄、東南アジア・太平洋地域の海の文化や沖縄の伝統的な生活文化を学び、体験できる当公園の中心ゾーンです。

沖縄文化・センターゾーンでは、利用促進を図るため、次の主な施設等の魅力と満足度をより高められるよう施設の再整備を行い、令和4年度のリニューアルオープンを目指します。

• おきなわ郷土村

郷土村等の解説や舞台等の機能をもった「ゆくい処」を新たに整備します。「遊び庭」は、既存樹木の整理等により、季節行事等が開催できる十分なスペースを確保し、新設される舞台と一体となって伝統芸能等のイベントが展開されます。



「ゆくい処」イメージスケッチ

・おもろ植物園

沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」を含め、沖縄の歴史・文化を学習するための「学べる休憩所」を新たに整備します。また、「おもろさうし」に詠われた沖縄の人々の植物との関わりを通じて沖縄の生活・文化・歴史を風景として再現します。



「(仮称)学べる休憩所」イメージスケッチ

・水の階段

かつて集落と海を行き来していた道（海人の道）をイメージとした園路において、古来から琉球の人々が水を司る龍神を崇拝してきたことから、これに係るストーリーを設定し、フォトスポットを体感しながら移動を楽しめる道とします。

また、琉球と薩摩の交流を、空間づくり(庭園)から知ることができるようにしています。



遠望の伊江島を主風景とした庭園

・総合案内所（ハイサイプラザ）

本島北部地域の観光や物産等に関わる情報の発信機能と休憩所機能を強化し、地域振興の拠点とします。また、利用者の動線を誘導し、立ち寄っていただけるように、広場に面した賑わい空間としてのデッキテラスや情報コーナーのカウンターを新設します。



ハイサイプラザ野外テラスイメージスケッチ

◆歴史文化の継承・展開

- ・おきなわ郷土村や海洋文化館等において、沖縄の歴史・文化、海洋文化を紹介するとともに、沖縄の歴史・文化、海洋文化を実感できる、企画展の開催や伝統行事等プログラムの活性化を引き続き図ります。
- ・伝統的な建築技術を継承し民家等を良好な状態で維持するため、一般市民も参加した協働事業により修繕作業等を継続的に行います。



おきなわ郷土村での踊り体験

(2) 首里城公園

① 首里城正殿等の復元・復興

首里城公園においては、平成元年より復元工事に着手し、平成31年2月には全てのエリアを開園しました。しかし、令和元年10月31日未明に発生した火災により、正殿等9つの施設が焼失しました。

それを受けて、令和元年12月11日に首里城復元のための関係閣僚会議において「首里城復元に向けた基本的な方針」が決定され、その方針に基づき、沖縄総合事務局では「首里城復元に向けた技術検討委員会」を設置し、首里城復元等に向けた技術的検討を進めています。

首里城復元に向けて

令和元年度の技術的検討委員会において取りまとめられた、「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討に関する報告」（令和2年3月17日）を踏まえ、首里城復元のための関係閣僚会議で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき復元整備を進めていきます。

【令和3年度】

- ・首里城正殿本体工事着工に向けての技術的検討を行います。
- ・木材の調達、防災・防火設備等の整備、木材倉庫を新設します。

【令和4年度～8年度】

- ・首里城正殿の復元整備を行います。



令和元年度 第3回技術検討委員

基本的な考え方

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達の状況の変化等反映しつつ、復元整備を進めます。

技術的課題に関する方針

(1) 防火対策の強化

- ・「首里城復元に向けた技術検討委員会」での検討を踏まえ、今回の正殿の復元に伴わせて防災・防火設備（連結送水管の一部等）を整備していきます。

また、設備の整備においては、世界遺産の構成資産である首里城跡の地下遺構の保護等を前提に進めていきます。

- ・防火対策については、再発防止の徹底、火災の早期発見と迅速な初期消火の徹底、消防隊による消火活動の容易化、消火のための水源の確保などや、監視体制等のソフト面の対策も踏まえて、沖縄県とも連携を取りつつ防火対策を強化します。



連結送水管（配管埋設イメージ）

(2) 材料調達の状況の変化等の反映

- ・木材及び漆の調達にあたっては前回復元時と同様に行いつつ、近年の状況の変化等も反映して、材料の調達を図るとともに、調達した木材を保管・加工するための木材倉庫を整備していきます。
- ・赤瓦については沖縄本島産の材料を調達するとともに、沖縄県内に蓄積、承継されている伝統技術の活用も図っていきます。
- ・沖縄県が寄付金を活用して行う木材等の調達について調整、協力していきます。

② 首里城復元の段階的な公開

- ・首里城復元に向けて進む復元工事の様子を、安全性を確保しながら段階的に一般公開を進めます。
- ・首里城復元において「見せる復興」を通して、復元工事の様子を段階的に公開していくことで、今回の復元工事等や貴重な歴史的遺産に対する理解を促進し、歴史公園としての魅力向上に努めます。



首里城正殿の基壇遺構等の公開

③ 地域振興・観光振興への貢献

◆地域との連携の強化

- ・沖縄県が実施する誘客事業と連動した国内外の誘客推進事業、学校や地域と連携した情報発信や連携事業、首里城の破損瓦等を活用したイベント等を推進します。
- ・沖縄固有の歴史・文化にかかわる行事、祭事、芸能等について積極的に導入を図り、多様で変化に富んだ利用運営を継続していきます。



赤瓦を活用する漆喰はがしボランティア

◆公園全体の魅力向上

- ・管理については、地元住民の利用に配慮しつつ適切かつ効果的な公園管理を図り、沖縄県管理許可の有料区域と県営公園区域と一体になった公園管理を行うことにより、沖縄観光や地域経済への効果をより発揮させていきます。
- ・県営公園区域(外郭とその外側)とのより一層の連携を図るとともに、復元された施設が一体となり、より深みのある琉球の歴史・文化にふれあえる首里城を演出するとともに、利用者サービスの向上に努め、公園全体の魅力を引き続き高めます。
- ・来園者のライフスタイルをより豊かに変化させるために、IT 技術の進化に伴う DX (デジタルトランスフォーメーション) の導入を視野に入れた管理運営を新たに進めます。
- ・首里城正殿等の復元期間において、一般公開やイベント開催、ボランティア活動等により、観光振興、地域振興に資する取り組みを進めます。
- ・インバウンド対応として、ICT を活用しつつ、利用者に対し復元整備の過程等が分りや

すい解説及び各種案内の五言語対応の充実化を引き続き行います。

- ・周辺地域への配慮を含め、来園者等が利用しやすい公園づくりを目指し、利便性向上や道路管理者が行う渋滞対策に連携して取り組みます。

◆既存施設の見直し

- ・復元整備済み建物等のうち、新たな資料が発見・収集されたことにより改修が必要となった建物等については、計画的に改修していきます。

◆歴史・文化の継承・展開

- ・琉球王朝時代に行われていた行催事の再現イベントや、沖縄の伝統芸能等を体験できるイベントを、継続的に地域との連携を図り開催します。
- ・歴史衣装着用による利用案内、収集・復元した美術工芸品を活用した企画展示会を促進します。



新春の宴

◆アーカイブの促進

- ・復元整備事業の過程で蓄積された資料を体系的に整理し、一般利用者、研究者等がより利用し易いシステムの整備を進めます。

④ 安全・安心な利用空間の提供効果の向上

◆防火・防災機能の充実

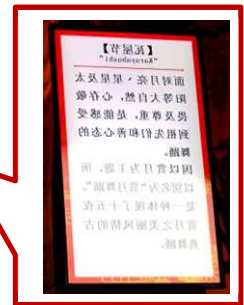
- ・大規模災害等発生時に、災害時要援護者等を含む全ての来園者を安全かつ円滑に誘導できるよう、避難誘導體制の充実や避難場所・避難ルート（公園外の周辺施設への避難ルートを含む）の確保を図ります。
- ・新型コロナウイルスへの感染拡大の予防等の新しい生活様式の状況や社会経済の変化等に対応した新たな管理運営形態を適切に実施していきます。
- ・火災の再発防止対策として、防災センター機能や防災・防犯設備等、防火対策の強化に取り組みます。

◆長寿命化計画に基づくライフサイクルコストの縮減

- ・公園施設長寿命化計画に基づく適正な維持管理を行うことにより、ライフサイクルコストを継続的に縮減します。

◆ユニバーサルデザインの推進

- 高齢者、障害者、乳幼児連れ、児童、外国人等来園する全ての人の利用に配慮し、ホームページ・パンフレット等の五言語表記、最新のICTの積極的な活用などにより、わかりやすい公園案内やヒューマンサポートを引き続き取り組みます。



「舞への誘い」イベント時の解説表示

◆復元施設の維持

- 首里城の復元施設以外については、施設・設備の劣化の程度を調査して、計画的に施設改修・更新を継続的に進めます。

◆植栽管理

- 京の内は、御嶽空間にふさわしい植栽景観が確保されるよう、西のアザナは、城郭内外の眺望を維持するよう植栽管理を引き続き行います。
- 園内の植栽地は、歴史的風致景観および都市公園に求められる機能を確保するための植栽管理を継続的に行います。

◆管理運営執行体制

- 有料区域の管理を担っている沖縄県と連携を強化することにより、沖縄観光や地域経済の振興への効果をより発揮できる管理運営体制の構築を図っていきます。

3. 事業効果

(1) 海洋博公園

◆沖縄の持続的な観光振興、経済活性化効果の継承と向上

沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園として、沖縄美ら海水族館とともに観光集客を牽引する機能強化を、沖縄文化・センターゾーンや熱帯亜熱帯環境ゾーン等において、公園の魅力や快適性・利便性が高まる取り組みにより、利用者増の嵩上げによって沖縄の観光振興と地域の経済活性化に、さらに貢献することが期待できます。

◆安全・安心な利用空間の提供、環境保全・活用効果向上

国内外から多くの利用者を受け入れる公園として、来園した観光客の大規模災害時におけるリスクを軽減し、公園を安全・安心に楽しめる仕組みづくりに取り組むとともに、公園の優れた環境の保全と活用に努め、自然環境との調和を推進することで、持続可能な開発目標（SDGs）の国際目標となる海洋資源及び陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用等への貢献が期待できます。



●目標 14: 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源の保全・利用に貢献

●目標 15: 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用に貢献

◆地域の歴史的・文化的資源を生かした文化伝承効果の向上

沖縄文化・センターゾーンのおきなわ郷土村等の改良事業によって、沖縄の伝統的な芸能、季節行事、暮らしの体験等、歴史・文化、生活文化を学び、体験する機能が強化し、沖縄の歴史・文化への理解と継承を促す機会の更なる充実化が期待できます。

【おきなわ郷土村ガイドツアー】



小学生を対象に、昔の沖縄の生活の様子を、御嶽・地頭代の家等の見学を通じて、教育プログラム等の学習体験の充実化が期待できます。

【沖縄の伝統芸能のエイサーの実演】



旧盆の夜に地域内を踊りながら練り歩くエイサーを、地域の青年会の実演により、沖縄の伝統芸能文化を体験する機会の向上が期待できます。

(2) 首里城公園

◆首里城正殿等の復元・復興

首里城正殿等の工事着工に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進めることで、前回復元時と同様に実効性の高い復元・復興が期待できます。

◆首里城復元の段階的な公開

首里城復元に向けて、段階的に「見せる復興」をリアルに体感させることにより、更なる公園の利用促進が期待できるとともに、琉球王朝時代の歴史・文化への理解と継承が期待できます。

【首里城の段階的な公開】



復元工事の様子について、安全性を確保しながら段階的に一般公開を実施することで、公園利用の促進が期待できます。

◆地域振興・観光振興への貢献

復元整備では外国人観光客を含め観光目線での「見せる復興」や関係地域等と連携した関連イベントを実施することにより、沖縄の観光振興と地域経済の活性化に貢献することが期待できます。

多様な行催事の実施等により、高齢世代と子育て世代、古くからの住民と新たに転入してきた住民等、多様な主体の交流・連携の機会を提供し、コミュニティの活性化への寄与が期待できます。



【令和2年度 首里城復興イベント】

ものづくり体験と地域連携交流をテーマに、琉球文化・歴史を学び、体験できる首里城復興イベントを通じて、沖縄の地域振興・観光振興へ更なる貢献が期待できます。

◆安全・安心な利用空間の提供効果の向上

国内外から多くの利用者を受け入れる公園として、来園した観光客の大規模災害時におけるリスクを軽減し、公園を安全・安心に楽しめる取り組みの向上により、持続的な利用促進が期待できます。